新宿区立大久保幼稚園今後のあり方に関する要望

新宿区長　中山　弘子様　　平成 24 年１０月１日

新宿区教育委員会　　大久保幼稚園外国人グループ保護者の会

委員長　熊谷　洋一様　　アイエス　基子（ガーナ代表）　李　有正（韓国代表）

教育長　石崎　洋子様　　ブルックス　示知子（イギリス代表）　陳　秀紅（中国代表）

田中　香苗（日本代表）　浅香　ソーンチャンタ（カンボジア代表）

向当　マノア　ビクトリア(フィリピン代表)

バロン　レオネーラ(コロンビア代表)

１.要旨

区立大久保幼稚園の今後のあり方について、保護者・区民の意見を十分にお聞き頂き、拙速に事を進めませんようお願い致します。

２．理由

新宿区長のマニフェスト「多様性・多文化共生」があります。平成 24 年 8 月に新宿区教育委員会は区立幼稚園のあり方見直し方針（案）の中で区立幼稚園廃園（案）が打ち出されました。大久保幼稚園は「多様性・多文化共生」を実践しています。しかし、廃園対象となりました。我々は、納得できません。大久保幼稚園外国人保護者の会では、地域の皆様のお力をお借りし今後のあり方を見直して頂きたく要望したいと思っております。

- 特色のある幼稚園で現在８カ国の外国にルーツのある子どもが平等に教育を受け、中山区長のマニフェスト「多様性・多文化共生」を実践しています。
- 10 月３日に行われた、大久保第二保育園解体工事の説明会に、必須な通訳が区では準備するすべが無く、本園に通訳の依頼の打診があり、本園では瞬時に５カ国の通訳の準備ができました。大久保がなくなれば、この様なノウハウはどこから受け継ぐのでしょう？
- 区が受け皿の一部に私立園があります。しかし、補助金制度は区の税金からです。
- 区立幼稚園には保護者が送り迎えをします。そのことにより、保護者同士のかかわりが強く、日本語の分からない保護者は小学校の入学時やまたは中学校・高校への進学時もその保護者を頼り、気軽に相談することが長年にわたりできています。
- 平成 23 年度の全国学習教育研究協議会では併設の小学校・幼稚園として、多様性・多文化共生のモデルとして、全国から 700 名あまりの教職員が訪れました。本年度も１１月２日に同協議会があり、全国から大久保幼稚園と小学校へ見学されたいと多数のお申し込みを頂いております。
  大久保小学校との併設で幼稚園がある事も存続の意義の大きな要因です。

上記の事を理解し、大久保幼稚園今後のあり方に関する要望に賛同致します。

お　名　前	ご　　住　　所